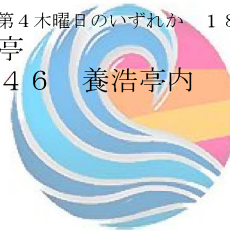


皆野・長瀬ロータリークラブ

週報

◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
 ◇例会場 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭
 ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134
 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp
 ◇点 鐘 小林 一夫会長
 ◇ソング 奉仕の理想



BE THE INSPIRATION

第1460回例会 平成31年1月24日(木)

会長代理挨拶

畝 徳治



皆さん、こんにちは。小林会長はインフルエンザという事で欠席になります。今日は世間で話題になっている事について紹介させて戴きます。タイトルは「行き過ぎた配慮」という事です。記事の引用ですが、私自身も同じように考えていますという事です。この記事は昨年12月17日にインターネット上に出ていた記事です。

去年10月に103歳で亡くなった私の祖父は、亡くなる1年ほど前から認知症を発症。目的の見えない外出を繰り返し、世話をする私の両親を困惑させていました。

これは、認知症患者によくみられる行動で「徘徊」と呼ばれていますが、この「徘徊」という言葉を使わないようにしましょうという動きが今、自治体の間で広がっています。

「徘徊と呼ばない」運動広がる…認知症患者の尊厳守るため（「読売新聞」2015/12/10）福岡県太宰府市では、去年まで「徘徊模擬訓練」と呼んでいた外出したままの認知症患者への対処法を体験する訓練から「徘徊」という言葉を外し、「声かけ・見守り模擬訓練」に変更。熊本県山鹿市の一部でも訓練の名称から「徘徊」を外し、今年から訓練を始めた佐賀県基山町は「徘徊」を初めから使わないことを決めています。「徘徊」を使わないのは、『「徘徊」の辞書上の意味』と『認知症患者が行う「徘徊」の実態』にズレがあるため。「徘徊」の辞書上の意味が「あてもなく、うろうろと歩きまわること」なのに対し、認知症患者が行う「徘徊」は必ずしもあてがないわけではなく、「子供を迎えに行く」「晩ご飯の準備をするために帰る」といった外出の理由が存在するケースもあるのだといいます。認知症患者への偏見を助長しかねない。こうした配慮も含まれているようです。「徘徊」が使えないとなると、他の言葉を替わりにあてなければならぬ。そこで最近、「徘徊」の替わりに使われ始めているのが「ひとり歩き」。「徘徊」の替わりが「ひとり歩き」。これはどうなのでしょう。認知症患者やその家族に配慮しすぎるあまり、実態から遠ざかってしまっているのではないで

しょうか。声かけや見守りが必要なある意味でネガティブな行動であるにもかかわらず、ポジティブな言葉で無理やり覆い、ネガティブな面を包み隠している。そんな印象を受けます。ここまで記事の引用です。

徘徊と言う言葉は、謡曲にも出てきます。謡曲では、徘徊は目的地を定めず自由に歩き回ることで、散歩と似たニュアンスです。元々は偏見を含んだ言葉ではありません。むしろ老人の行動に使ったため、偏見ニュアンスが後から付いたと言えます。

ネガティブな事象を表現する言葉は、定着すると別の言葉に言い替えようとする運動が世の中でしばしば起こります。事実をボカす言い替えには、私も疑問を感じます。

続いて幹事報告を致します。

1. 地区事務所より
 - ①地区役員の派遣について
 - ②国際奉仕活動支援金のお願い
 - ③ライラダー開催の案内
 - ④ロータリー財団海外派遣奨学生募集ポスター
 - ⑤R I 囲碁大会の案内
2. 岡部RCよりIMの案内
3. 米山記念奨学会よりハイライトよねやま

干支の話



山田 利明会員

毎年同じような事ですが、本で拾ってこんな事かなというように事です。基本的な事があります。今年2019年は、十干では、己です。数の数え方で甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の10個で1から10までの数え方です。十二支は、子丑虎卯龍巳午未申酉戌亥です。今年12番目の亥年です。干支と言うと、十干の甲乙丙丁の読み方を違う読み方にする、きのえ、きのと、ひのえ、ひのと、つちのえ、つちのと、かのえ、かのと、みずのえ、みずのと。奇数が「え」です。えは兄、弟が「と」3番目が「え」、4番目が「と」になります。そんな意味から、「え」と「と」なので干支と書いて、「えと」と読みます。十二支は甲乙

丙丁、また九星占術があります。今年は八白土星です。9つ星がありますが、星は5つです。木星、火星、土星、金星、水星です。八白土星が真ん中に来ます。9星が位置する所がありますが、1年毎に回ります。八白土星は本来は北東に位置しますが、今年は中空に八白土星が来たという事です。その影響が大きいという意味があります。ちなみに私は五黄土星です。生まれた年は、真ん中に五黄土星が来るという意味です。

この3つから運命を占うのですが、己、甲乙から数えて6番目です。6番目ですが、己（つちのと）で戊（つちのえ）の弟です。木々に例えると、発芽して伸びていきますが、夏を過ぎて草木が十分に伸びた状態です。成長して、十分成長しているというところです。次の十二支でいくと、亥ですから最後です。これも草木に例えると、子が最初、子は最初なので真ん中に始まって、丑、寅と進むと、草木が成長して、葉が出て茂ってという事になります。亥年は種が出来て殻の中に閉じこもっている状態です。骨組みの形で閉ざすという意味です。九星ですと、八白土星です。北、白、山とか、季節は晩秋から初春です。今年は、十干にしても十二支にしても九星にしても最終的にいろんな事が留まって、中に秘めている状態です。二十四方位がありますが、亥年は、種を中に秘めて、これから弾ける状態で、次の年に繋げて行くのが亥年です。そこに木星が来ています。北を冬とすると、今冬で一番秘めている状態です。十干は、甲乙丙丁という事で、東から回っていきます。それでは戊、己は中央にいます。その影響が大きいから、土星、土という事です。それから次の年は、西の方向へ庚、辛です。子の所へ壬、癸があります。二十四方位は、種から成長して、また種になって、子の手前に来ます。二十四方位を見ると亥年の次は子年ですが、その間に妊があります。芽が出てくるという意味です。

今年は、草木が十分に伸びている状態。草木が命を閉ざして地中に潜っている状態。いろんな事が閉じていて、来年は弾けるのではないかと。今年はいろんな物が中に秘められて、大人しくしている状態かなと思います。方位として己は、中央となり、王道の方位であると。色は金色です。亥の方位は北北西、命を秘める。種、芽が出る一步手前。九星では、八白土星、本来は、北東に位置します。今年は中宮、真ん中です。色は白、山、本来北東に位置するものが中宮にあるという事で、3つの意味がそろっています。政治でも、いろんな物が秘めている状態で、来年になるといろんな事が弾けるのではないかと考えてます。影響してくるのは、立春、2月4日からです。まだ干支上はまだ前年度です。

二十四方位の亥年の方向は、上が水とか黒とかの影響があります。秘める方向です。子の方向が黒で、種から生まれて東の方向が明るくなって、下に来ると赤々と燃えて、まただんだん西に来て白く戻って、また黒に戻ると。亥年なので十干は中央、九星は北北東なので北です。土も意味します。今いるのが中央です。このような事から秘める意味があるかなと。今年は何の

中において、来年になるとエネルギーが弾けるといふ事のように。今年は今までのエネルギーを溜め込んで、来年にはオリンピックもありますので、弾けるのではないかと。私が考えるのは、エネルギーを秘めて、行動しないような年かなと思っています。

出席率

免除以外の 会員	出席免除 会員	出席	メイク	出席率
12	0	6	2	66.7%

2019-20年度 RI会長テーマ

